

1 本年度の重点教育目標

豊かな心をもち 共に学ぶ 北日吉の子

2 本年度の取組の重点

- ① 創意工夫ある教育課程の編成と教育活動の推進
- ② 学年・学級経営と特別支援教育の充実
- ③ 教師の専門性や指導力を高める研究・研修の充実
- ④ 教育効果を高める教育環境の整備と活用
- ⑤ 家庭や地域、関係機関と連携した開かれた学校づくりの推進
- ⑥ 危機管理体制の強化と危機管理意識の高揚
- ⑦ 業務改善の推進による教育活動の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見(改善策など)
① 確かな学力を育む教育活動の充実	主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善の工夫を図ることができたか	a	より一層の授業改善を行い、コロナ禍でのより効果的・効率的な学習スタイルの確立に努める。また、導入された児童用学習端末の効果的な活用について研修、実践を進める。	A	A	・主体的、対話的で深い学びの授業展開は素晴らしい。ICT機器の一層の活用をお願いします。
	基礎基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力等を高める個に応じた指導ができたか	b	各種調査結果を検証し、北日吉学習スタンダードの徹底、家庭学習チェックシートの内容の検証及び取組の一層の推進を通して学習習慣の定着と内容の深化を図る。漢字検定、九九リビック等の取組についても継続し、学力の確実な定着を図っていく。	A	A	・学習スタンダードの徹底や家庭との連携など現在の取組を継続すると共に、学力向上の取組を更に進めてほしい。
② 豊かな心を育む教育活動の充実	豊かな体験活動を通じた人としての生き方、在り方を考える教育活動の工夫を図ることができたか。	b	豊かな心を育む教育活動を重点に、係や委員会活動を含め全領域において道徳性を養い、保護者にもよりわかりやすく伝えていくための情報発信の在り方を模索していく。また、児童が達成感を得られる効果的な活動を精選し、特別活動の充実を図る。	A	A	・行事や委員会などの役割活動を通して、主体性を培うことは大切です。CSや地域の人を活用して行くことも考えてほしい。
	心に響く道徳教育を通したいじめ未然防止等にかかわる教育活動の工夫を図ることができたか	a	道徳性を培う授業の実践と、児童アンケートやなかよし点検、教育相談等の取組を定期的実施することで実態の把握に努めていく。また、保護者への情報提供の在り方を見直し連携を深めることで、いじめ未然防止、早期発見と適切な対応を行っていく。	B	A	・道徳教育はすぐに結果が表れるものではない。いじめ対応も含めて、家庭や地域と連携して臨むことが必要です。
③ 健やかな体を育む教育活動の充実	望ましい食習慣や進んで運動に親しむ態度を育てる教育活動の工夫を図ることができたか。	b	体力テストや縄跳び週間を継続的に実施し、実態の把握と課題解決の方策を探る。コロナ禍でも実施可能な活動を精選し、年間を通して運動に親しむ機会を設け、体力の向上を図る。また、栄養教諭と連携した食育指導と、日常の給食指導の充実を図っていく。	A	A	・好ましい運動習慣や食習慣の確立に向けて、自分自身の生活に興味、関心をもつことができる取組に期待します。
	自ら健康で安全な生活を営む能力や態度を育てる教育活動の工夫を図ることができたか。	b	感染症対策等も鑑みつつ、状況に応じた形態で、地域や保護者と連携した一斉下校訓練や様々なケースを想定した避難訓練の実施と、安心安全メールを効果的に活用した迅速で適切な情報発信を行っていく。	A	A	・安心・安全メールの活用による情報発信がとても効果的である。この機に防災や生活環境の改善を図って行くべきである。
④ 教職員の専門性を磨く研修の充実	教育目標の実現に向けて教職員が適切な役割を果たすとともに、相互に連携しながら教育活動に取り組むことができたか。	a	PDCA サイクルを生かして業務の見直しを図り、相互に連携しながら、学校教育目標、重点教育目標の実現を図っていく。また、より効果的な情報発信の在り方を模索していく。	A	A	・教育目標の実現のため実践をされていることがうかがえます。コロナ禍の今こそ先生方の声かけが必要です。
	学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	b	校務支援システムやICTを活用して業務改善を進めることで、教育活動の質の向上を図る。また、チームとして教職員各々が最大限の力を効率的に発揮できるよう、一層の業務の見直しと平準化を進める。	B	B	・業務改善は、わかりにくいところ。効率的に時間を生み出すときめ細かい対応ができると思っています。
⑤ 家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	コミュニティ・スクールの取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	b	様々な状況を考慮した上での活動計画を立て、PTA 活動やアフタースクール、登下校の見守り等、地域や保護者と連携した教育活動を展開していく。	A	A	・CSの活動で緊急連絡システムを立ち上げたかった。 ・PTAはコロナ禍の自粛で滞ってしまった。
	家庭・地域・学校がめざす子ども像や教育目標、学校運営の基本方針を共有することができたか。	b	保護者、地域に対して、学校教育目標・重点教育目標、教育課程について、教育場面を通してよりわかりやすく伝え、共有していく。そのための情報発信の場の設定や方法についても検討していく。	A	B	・学校が目指す子供像が地域に根付いていない。学校からの発信の方法について新しいツールの使い方を検討していきたい。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。